

## 2020 年度事業 進捗報告書(実行団体)

- 提出日 : 2022 年 9 月 30 日
- 事業名 : 避難所運営の人材育成と支援調整のための全国ネットワークを形成する
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム(JPF)
- 実行団体 : 一般社団法人 ピースボート災害支援センター(PBV)

### 1 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況
1-1) 避難所における課題の事例収集	各自治体から避難所運営計画に対する課題感や、過去の被災地から事例を収集し、避難所運営に関する課題の情報が集まっている。	・ヒアリング地域数/10 地域 ・ヒアリング数/6 回	2022 年 3 月	・アンケート、ヒアリング地域数/35 地域 ・アンケート、ヒアリング数/78 件	2
1-2) 避難所における課題の整理、分析	過去の避難所運営において発生した課題を整理し、その背景や解決方法について分析、情報整理が行われている。	・整理・分析された課題数/50 個	2022 年 6 月	・整理・分析された課題数/4 災害、760 個(継続中)	3
2-1) 課題解決のためのツールの開発	避難所運営における課題解決の促進、また人材育成に繋がるツールが開発されている。	・ツール開発のための会議の実施回数/5 回 ・成果物の数/1 個	2024 年 3 月	・ツール開発のための会議の実施回数/14 回 ・成果物の数/0 個	3
2-2) 避難所運営の知識と、支援の重要性が理解した人 事育成	研修等の開催の前後にて、アンケート等で理解度が計られている。	・開発ツールを活用した研修等の実施回数/6 回 ・開発ツールを活用した研修等の受講者数/120 人 ・開発ツールによる研修等の理解度/70%	2024 年 3 月	・開発ツールを活用した研修等の実施回数/0 回 ・開発ツールを活用した研修等の受講者数/0 人 ・開発ツールによる研修等の理解度/0%	2
3-1) 避難所アセスメントシートの作成	避難所運営ガイドラインやスフィア基準に基づいた、尊厳のある避難所生活を指針とした避難所アセスメント項目をつくる。	・複数あるアセスメントシートの検討会の開催/3 回 ・アセスメントシートの作成/1 個	2024 年 3 月	・複数あるアセスメントシートの検討会の開催/6 回 ・アセスメントシートの作成/1 個(要改良)	2
4-1) ネットワーク会議体の設置	属性の違う既存団体と新規団体の参加数が増え、意見交換や合意形成の機会が作られる。	・ネットワーク会議の開催数/6 回 ・参加団体数/20 団体 ・参加者数/40 名	2024 年 3 月	・ネットワーク会議の開催数/16 回 ・参加団体数/23 団体 ・参加者数/33 名	2
4-2) 支援団体リストの作成	都道府県域や全国域で活動する団体の属性や支援分野について分類したリスト作成し、支援調整を実施できる体制をつくる	・支援団体へのヒアリング/5 団体 ・支援団体の属性や支援分野を分類したリストの作成/1 個	2024 年 3 月	・支援団体へのヒアリング/0 団体 ・支援団体の属性や支援分野を分類したリストの作成/0 個	2

\* 進捗状況: 1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A:変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・オンラインツールを活用し、打合せ等を実施した。 ・自治体職員を対象としたヒアリング実施に向けて、オンラインでの対応が可能か、アンケートにて事前確認を行った。

## ③ 広報(※任意)

1.メディア掲載(TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

-

2.広報制作物等

-

3.報告書等

-

## 2020 年度事業 中間評価報告書(実行団体)

### 評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価の実施	小林深吾	理事、コーディネーター
内部	評価の実施、報告書の作成	辛嶋友香里	コーディネーター
内部	評価の実施、報告書の作成	井上綾乃	スタッフ

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提供に協力していただいた自治体職員</li> <li>・避難所運営支援に関わる組織、団体</li> </ul>	避難所における避難者と運営者の課題整理と共有がされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所における課題数／100 個</li> <li>・課題共有の組織数／30 団体</li> <li>・課題共有の人数／100 人</li> </ul>	2022 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで当団体が実施してきた避難所運営支援活動の中で発生した課題 760 個（継続中）を抽出し、整理したことで、毎年繰り返されている課題やコロナ禍において新たに発生した課題や改善に向けた主体の傾向を知ることができた。</li> <li>・中長期（1 か月以上）の避難所運営経験がある自治体（53 市町村）職員を対象とした課題把握のためのアンケートを実施。35 自治体から 78 件（人）の回答があり、自治体職員が抱える課題や困難感の傾向を知ることができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地域の中間支援組織</li> <li>・モデル地域で避難所運営に関わる可能性のある組織、団体</li> <li>・自治体</li> </ul>	モデル地域（岡山県など）を中心に、都道府県域の災害支援ネットワーク形成が進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク関係者による会議の実施回数／20 回</li> <li>・ネットワーク関係者の構成主体数／10 団体</li> <li>・会議等により改善された取り組み数／10 個</li> </ul>	2024 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業の実施において連携している JVOAD 避難生活改善に関する専門委員会や岡山 NPO センターと定期的に会議を実施し、避難生活支援におけるツール内容と災害支援ネットワークの形成に向けての検討を引き続き継続している。</li> <li>・佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）との連携についても継続している。</li> </ul>



## 2 アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
-	-	-



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>自団体のこれまでの支援活動を通して発見した課題については、解決方法ごとに内容を整理し、振り分けを行っている。さらに、自治体職員向けのアンケートを実施したことで、避難所運営に関する課題を多角的に把握することができた。あがっている課題については、本事業の中でどのように活用していくか、専門家と相談しながら分析を行っていく。一方で、事業設計時に想定していたよりも多くの課題があがっており、整理や分析に時間を要するため、一部進捗に遅れが生じている。</p> <p>また、連携団体である JVOAD との話し合いや、成果物の波及効果を検討した結果、より幅広い効果が見込める JVOAD と今後も連携し、当団体主幹のもと引き続き、ツール開発や作成においても協働で実施を進めていく。事業設計も当初の計画から内容や事業のスケジュール、最終的な効果・影響等に関して見直しや変更が必要となっている。</p> <p>以上のことから、今後、事業計画の変更を行い、一部アウトカムを事業内容に適した指標となるよう修正を行う。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### 1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	スケジュールが適切に組まれているか	組まれている	各活動の達成時期から遅れが生じていたため、2022年4月にスケジュールの詳細を調整し設定した。以降、定期的に状況に合わせた見直しと、分配団体への進捗共有を図っている。スケジュールの設定に際しては、災害発災時の緊急支援対応等も考慮した。
	スケジュール通りに事業が進んでいるか	遅れが生じている	中長期の避難所運営経験がある自治体を対象としたアンケートの実施において、質を考慮しより具体的な調査を行うため、連携団体や自治体職員等多くの方に内容の精査にご協力いただいた。依頼したアンケートの回答も、想定よりも多くの自治体から丁寧な回答内容をいただくことができた。 一方、実施までの作成・依頼過程を丁寧に進めたことにより、計画よりも調査実施から分析において、予定よりも時間を要しているため、進捗に遅れが生じている。
実施をととした活動の改善、知見の共有	必要に応じた事業計画の見直しができているか	できている	週に一度、事業担当者間で事業内容や進捗に関する打合せを行い、事業実施に関して細やかな確認や見直しを行っている。 その他、連携団体との打合せを定期的実施し、事業の方針や具体的な活動内容の検討を行っている。 加えて、資金分配団体との月次打合せでは、客観的に事業内容や進捗に関してアドバイスいただき、それらを踏まえた改善、見直しを行っている。
組織基盤強化・環境整備	事業内容に応じて適切な人材の確保や、他組織との連携ができているか	おおむねできている。	当事業を担当するスタッフには避難所運営の経験がない人もいたため、状況や背景の説明に時間を要してしまう状況が続いていた。そのため、複数個所での避難所運営や自治体での勤務経験があるスタッフを5月から雇用し、事業の運営体制を整えた。 また、連携団体である JVOAD と共同で事業に取り組むことで、多様な知見を基にした活動が可能となり、基盤強化に繋がっている。

### 2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

中長期の避難所運営経験がある自治体職員を対象に行ったアンケートにおいて、予想以上の回答を得ることができた。いただいた回答内容も非常に具体的かつ、丁寧な回答をいただいたため、質的調査として非常に意義のあるアンケートを実施することができた。回答結果の集計や分析を行う中でより多角的に、深く避難所運営に関する課題について、考察することができている。

### 3 事前評価時には想定していなかった成果

当団体がこれまでに実施した災害支援活動の際に記録している、会議や内部ミーティングの議事録を全て確認し、当時の避難生活における数百以上に及ぶ課題を抽出することができた。また、同じ内容の課題であってもひとつひとつ背景が異なっているため、同時に事例の収集にも繋がり、より実証的な内容を提供することが可能となる。



#### 4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>避難所運営に関する課題数や、自治体職員を対象としたアンケートの回答率および回答内容については、事業計画作成時の想定を上回る成果を得ることができた。今後は、課題の整理やアンケートから得られた情報をより専門的に分析・考察するため、大学教授等の専門家と共同で活動を行う体制を整えている。</p> <p>さらに、連携団体や資金分配団体と適切に議論や相談を行うことで、より精度の高い具体的な事業の方針を固めていくことができた。</p> <p>一方で、申請時に作成した事業計画からは、事業を遂行していく中で見えてきた課題や状況、取り組むべき内容に応じてより、現在の短期アウトカムの内容や指標等に、一部ずれが生じているため、実際の事業に沿った事業計画の見直しを行っている。事業目標に大きな変更はないが、1年目で実施し見えてきた課題にそった対応を行えるよう細かな修正を行う予定である。</p> <p>以上のことから、当事業は事業計画を適切に改善し、事業終了時には短期アウトカムを達成できると評価する。</p>

#### 5 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

・中間評価を行うことで、現在の事業運営における課題を見つめなおすことができた。今後は、実際の事業内容や進捗に沿って、実現可能な事業となるよう、現状の事業計画の短期アウトカムに関して、内容や目標値の見直しを早急に取り組みたい。

・避難所運営における課題の解決や、運営を担う人材育成に活用することのできるツールの作成を計画通り進めていくため、有識者の知見を踏まえながら、課題やアンケート結果の分析をより丁寧かつ具体的に実施していきたい。